

滋賀県

健康医療福祉部健康医療課
がん・疾病対策室



■現状

滋賀県のがん検診受診率は、年々増加傾向ですが、全てのがん検診で全国平均を上回っておらず、死亡率の減少効果が期待できる目標受診率 50%にはおよんでいない状況です。

市町における精密検査受診率は全国平均を上回っており、全国的に低い大腸がん検診でも高い精密検査受診率です。また市町におけるがん検診の精度管理・事業評価は、全市町において実施され、「市区町村におけるがん検診チェックリストの使用に関する実態調査」（国立がん研究センター）では、5 位～11 位と全国の中でも高い精度です。

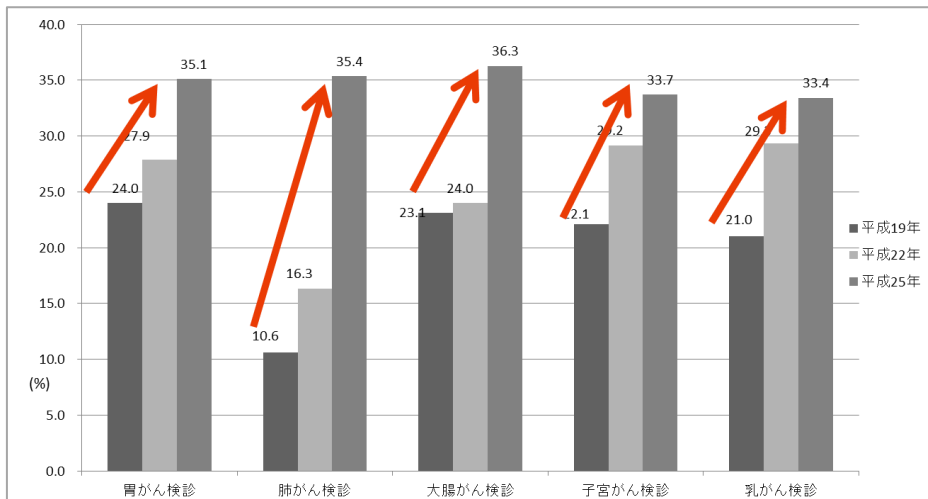


図 1 ; 滋賀県がん検診受診率の推移

出典 ; 国民生活基礎調査

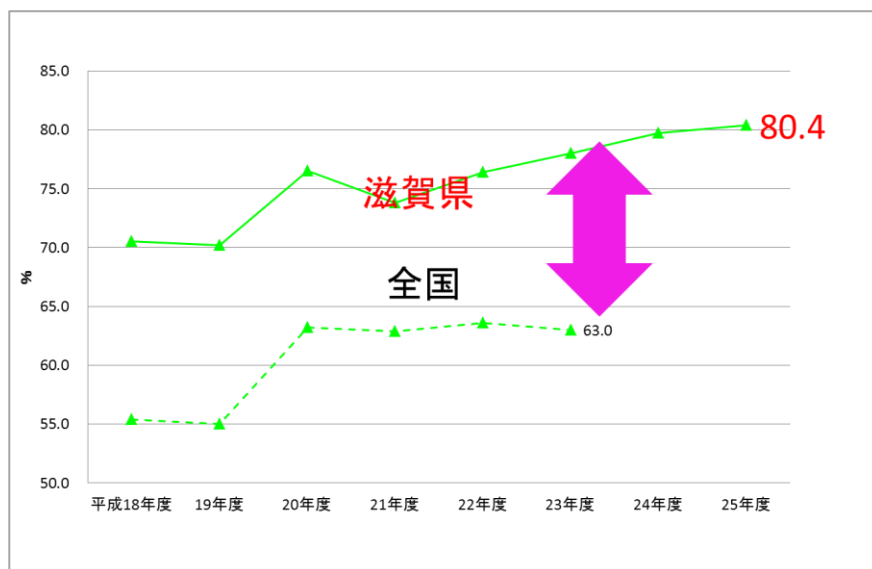


図 2 ; 滋賀県市町における大腸がん精密検査受診率の推移と全国比較

出典 ; 地域保健・健康増進事業報告 (県分)

そのため滋賀県の課題は、精密検査受診率および検診精度を維持・向上しつつ、受診率 50%に向けて働きかけを行うことです。

■モデル事業全体の概要と報告

このような状況で、国立がん研究センターの取り組みを学び、モデル市町の取り組みを県内全市町へ波及させることで県全体の受診率向上を図ることができると考え、甲賀市をモデルに県内に取り組みを広げることとしました。

甲賀市では、平成 25 年度にモデル事業としての取り組みがされ、乳がん (40・45・50・55・60 歳) ・子宮がん (25・30・35 歳) のクーポン対象者で受診していない者の約 4,000 人を対象に 11 月にリーフレットを送付し、再勧奨を実施されました。その結果、勧奨以後の受診率はともに増加しました。

県ではこの事業参加に伴う費用負担は行いませんが、県では従来から県保健所が、がん検診精度管理を事業に位置付け、担当者会議や従事者研修会の開催・助言など市町支援を行っています。このモデル事業も同様に甲賀市

と県保健所で相談しながら、実施されました。

■他の市町に広げる取り組み

この取り組み結果を基に、平成 26 年度の事業展開は他市町への波及を目的に、市町従事者研修会の内容を「甲賀市や全国の実践報告」とし、開催しました。

その効果を受け、平成 26 年度にはモデル市以外の市町でも、リーフレットを利用した取り組みだけでなく、既存の媒体にソーシャルマーケティングの手法を取り入れたリーフレットを独自に作成し、受診率向上に向けた取り組みがされています。

今後、成果の評価を行い、現場に合ったノウハウを県内全市町に広げることのでがん検診受診率の向上を図りたいと思います。また、先進事例などの情報提供を市町に行うだけでなく、患者会と一緒に出前教室を開催するなど関係機関と一緒に、さらなるがん検診受診率の向上のための取り組みを進めていきます。